

外国人患者増に伴い、案内表示板を日本語、英語、中国語、韓国語の「4カ国語」で表示した製鉄記念室蘭病院



# 訪日外国人急患 対応スムーズに

## 案内板、多言語で表示

製鉄記念室蘭病院

訪日外国人の増加を受け、製鉄記念室蘭病院（前田征洋病院長）では、「多言語」の案内表示板を設けるなど「外国人患者の円滑

な受け入れ」に向けた対応を始めた。案内板は「日本語」「英語」「中国語」「韓国語」の4カ国語表示にした。同病院では「安心して

旅行を続けるための基盤整備の一つとなれば」としている。

登別温泉や洞爺湖温泉など、訪日外国人が多く訪れる道内でも有数の観光地を抱える西胆振管内。同病院によると受け入れは年々増加しており、2016年度（平成28年度）は（救急搬送含む）15年度比23・3%増加している。

「急な疾病や負傷への救急対応は、病院のミッションとして、責任を持って対応することが必要」（同病院）とあって、今年3月には観光庁の「外国人旅行者の受け入れ可能な医療機関」（道内は26医療機関）の一つに選定された。4カ国語表示は円滑な救急受診に向けた態勢整備の一環として取り組んだ。

同病院では「救急玄関」や「救急処置室」「放射線科受付」などの「看板」をはじめ、床面の案内ラインなどの「動線」を多言語化。「受診した際に通行・利用するゾーン」（同病院）を整備したほか、一部の文書類も同様に4カ国語対応とした。

「外国人患者の受け入れ態勢の整備」は、2020

年東京五輪開催を見据えた全国的な課題の一つ。西胆振管内の医療機関でも、救急対応時に「言葉が通じず、意思疎通がうまくいかない」などでトラブルに発展したケースもあるという。同病院では、英語や中国語などを表示することで、「薬の引き渡し場所や、レントゲン撮影室などを案内する際にもスムーズに進められる」などと説明。「文字で理解してもらおう」として（訪日外国人の）円滑な救急受診につながれば」としている。（松岡秀宜）